



やまびこ
2025

10

9/13 中学校新築開校日
講師の清田先生のお見送り

2025年度学校目標：「Be a Pleasing Aroma of Christ：良きキリストの香りとして」

「失敗からの成長：神様の赦しと希望の中で」

私の56年間の人生を振り返ると、多くの失敗を重ねてきました。幼い頃のことは覚えていませんが、高校時代に生徒指導を受け、先生方にご心配をおかけしました。大学受験でも準備不足から第一志望に届かず、「もっとこうしていれば」と後に思い返したこともあります。教師になってからも、自分の言動で生徒や同僚、そして保護者の方々を傷つけてしまったことが少なからずあったと思います。校長になってからも失敗を繰り返し、そのたびに神様に謝ってばかりいるのが正直な姿です。失敗を繰り返しながらも、今の自分が形づくられてきたと実感しています。失敗を避けたいと願いながらも、そこから学んだことが、むしろ自分を成長させる大切な糧となってきました。

先日、営業で来校した株式会社リクルートの方からキャリア教育専門誌をいただきました。表題は「未来につながる失敗のすすめ」。元サッカー日本代表監督で、現在はプロサッカーチームFC今治のオーナーであり、2024年に開校したFC今治高等学校の学園長も務める岡田武史さんが寄稿していました。岡田さんは「不確実性の高い社会で挑戦すれば、失敗は何割か必ず起こるもの」と語ります。そして「自分で一歩を踏み出す力を身につけてほしい」と願い、大人が喜ぶことを進んで行動するのではなく、本当の意味での主体性を育てたいと記していました。岡田さんの学校では「エラー＆ラン（失敗から学ぶ）」を合言葉にし、生徒も教員も互いに挑戦を応援し合い、失敗を前向きに捉えることを大切にしているそうです。そこには、失敗を叱責ではなく成長の出発点と見る視点があります。

考えてみれば、学校という場もまた不確実性の高い環境です。さまざまな背景を持つ子どもたちが集まり、ともに学び生活します。本校のように寮生活を含む学校では、勉強だけでなく生活面でも失敗が起こります。宿題を忘れる、友人関係でつまずく、生活習慣が乱れるなど、一つひとつの失敗は日常の中にあります。学校自体も課題や至らない点を抱えながら歩んでいますが、その中で教職員が協力し、生徒とともに学び合い、次に活かしていくことが教育の営みではないでしょうか。

聖書にも、失敗を通して大切な教訓が記されています。それがペテロとイスカリオテのユダの歩みです。ペテロは恐れからイエスを三度否認しましたが、鶏の声を聞いたとき「外に出て激しく泣いた」（マタイ26:75）とあります。その悔い改めに対し、復活の主は「わたしの羊を飼いなさい」（ヨハネ21:17）と語りかけ、彼を赦し、新たな使命を与えられました。一方ユダは、銀貨30枚でイエスを売り渡した後、「私は罪を犯した」（マタイ27:4）と告白しましたが、赦しを信じきれず絶望の中で命を絶ちました。両者の違いは「失敗そのもの」ではなく、「赦しを信じて立ち返ったかどうか」にあります。

人生も学校生活も、失敗を避けて通ることはできません。しかし大切なのは、失敗しないことではなく、失敗を通して神様の赦しと希望を受け入れることです。私たちは赦しの中で再び立ち上がり、成長することができます。生徒も学校も同じです。失敗を恐れず挑戦し、神様に立ち返りながら歩みを進める。その中で共に成長し続ける学校でありたいと願っています。

校長 北林 聡

9月7日から中学校秋の祈禱週が満島誠成先生によって持たれました。「罪人を招くため」という題で、毎日生徒からの質問に答えながら、福音をわかりやすく語ってくださり、安息日には3名の中2男子がバプテスマを受けました。そのうちの一人、柴田涼君の証をご紹介します。「母にバプテスマを受けると言うこととても喜んで、『神様の家族になれるね』と言ってくださいました。『神様の家族。なんかうれしいな』と思いつつバプテスマを受けたのですが、水から上がるとき急にフラッシュして、地面に強く体が引っ張られる感じで、向かがゴソッと落ちていくようでした。そのとき『コリント5:17の聖句をはっきり思い出しました。『だから、キリストと結ばれる人は誰でも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。』まさにこれを感じた瞬間でした。罪から離れられないありのままの自分がバプテスマを通して神様と結ばれた時、神様は自分のことを受け入れてくださり、新しい者として再創造してくださいました。『コリント5:21にあるように、『私たちはその方によって神の義を得ることができたのです。』この世で生きている限り完全に罪から解放されることはありませんが、バプテスマを受けた者として、また神の家族として多くの人々を神の家族に招く存在になりたいです。』

(中学校チャプレン 齋藤 望輝)

高校秋季祈禱週 9/7~9/13

9月7日(日)から13日(土)まで秋の祈禱週が持たれ、岡山教会の柴田寛牧師が「探し物は何か」というテーマで1週間お話をしてくださいました。イエス・キリストの教え、十字架の犠牲、復活を通して、私たちの心に開いた穴を埋めるピースを渡し出す方法を学びました。日常の生活を通して経験する属たされない思いをどのように解決したらよいのか、キリストの生涯を土台としてわかりやすくお話してくださいました。また、生徒たちが持つ質問にも丁寧に答えてくださり、これからの信仰生活を送る上での有益な時となりました。有益な1週間を与えてくださった神様と、労を取ってくださった柴田寛牧師に感謝いたします。

(高校チャプレン 藤田 佳大)



今回の体育祭のテーマは、「彩れ青春、君色に」でした。このテーマにした理由は、たくさんの方がいる三育において、それぞれの個性を輝かし、青春を自分のものとして楽しんでほしいと思ったからです。今年はレッド、ブルー、グリーンの3学年混合の3チームに分かれて競技を行いました。終始、熱い声援が飛び交っていました。数年ぶりに復活させた我田引水という競技を含め、合計12種目の競技を行いました。互いに助け合い、一致団結して一生懸命に戦う仲間たちの姿がとても印象的でした。まさに、一人一人の彩りが輝く青春のひと時でした。雨が続く季節の中、当日の天候が支えられたことを感謝しています。

(体育祭実行委員 高校2年生 栗栖 未来)



中学校体育祭 9/28

まず、お忙しいところはるばるお越しいただいた保護者の皆様には感謝申し上げます。皆様はお子さんの頑張る姿を十二分に見られたでしょうか？私はあいにく雨も来ませんでした。それでも周りの熱気、頑張りに影響され、最後まで全力で取り組めたかと思えます。全員リレー、パン食い、途中で急遽入ったナルトダンス、どれもが楽しいものになりました。そして今年は3年生にとって最後の体育祭でした。卒業に向けて、これから後輩に託していくものが増えていくと思います。研成会、体育祭実行委員、コワイヤー役員など、1年生、2年生は様々なことにチャレンジしていきましょう。失敗するかもしれないけれど、その先には必ずあった壁以上に大きな経験があると思います。それを目指して、これからも三育生活を頑張ってください。

(体育祭実行委員長 中学3年生 藤田 歩巳)



【中学校のAO入試について】

お知らせ

AOエントリー登録受付期間は
10月17日(金)~11月14日(金)です。
詳細は教務課までお問合せ下さい。

Schedule for the Activities

中学校

9日(木)~13日(月)	前期終業、中間休み
13日(月)	帰校日
17日(金)	漢字検定
21日(火)	ロードレース
1日(土)~2日(日)	秋季PTA
3日(月)	振替休日
3日(月)~8日(土)	高校の卒業祈禱週に参加
9日(日)	第2回英語検定2次試験

高等学校

9日(木)~13日(月)	中間休み
13日(月)	帰校日、記述模試(3年希望者のみ)
14日(火)	記述模試(3年希望者のみ)
17日(金)	漢字検定
21日(火)	ロードレース
29日(水)	模擬試験(3年生は希望者のみ)
1日(土)~2日(日)	秋季PTA
3日(月)	振替休日
3日(月)~8日(土)	卒業祈禱週
9日(日)	第2回英語検定2次試験